

1. 世界をフィールドに活躍する写真家

世界をフィールドに活躍する写真家、石川直樹による東京での初の大規模個展です。

弱冠22歳で北極点から南極点までを人力で踏破、23歳で七大陸最高峰の登頂に成功した石川は、その後も世界各地を旅しながら、人類学や民俗学などの観点を取り入れた独自のスタイルによる写真作品によって、私たちの日常や世界を見つめ直す活動を展開し続けています。

本展では、北極、南極、ヒマラヤ8000m 峰といった極地を撮影した各シリーズ、ニュージーランドの原生林を撮影した『THE VOID』、ポリネシア地域に浮かぶ島々を星に導かれるように巡った『CORONA』、世界各地の洞窟壁画を訪ねた『NEW DIMENSION』、そして日本列島の南北に広がる島々を探索する『ARCHIPELAGO』など、石川の初期から現在までの活動の全貌を総合的に紹介します。



「K2」(2015)

2. 地球を見つめ直す

石川が一貫して関心を寄せるのは、地球上のあらゆる場所に古くから伝わる生きるための「技術＝叡智」であり、国境などの区分では捉えきれない各地の有機的なネットワークの有り様です。石川が目と足による縦横な探求は、文化人類学的なフィールドワークであると同時に、もともと「技術」という意味を語源にもつ「アート」を追求する果てしない旅ともいえるでしょう。

極地や最難関の登山といわれる K2への遠征をめぐる作品を道標として、世界を旅するように会場を歩くことで、石川が提示する新しい世界地図を体感できます。地政学的な区分によらない、各地のつながりや文化の姿は、新しい視点からこの地球という星を見つめる機会に導いてくれるでしょう。



「POLAR」(2007)

3. 石川直樹の部屋

石川直樹が遠征の際に携行し使用した装備や道具、旅先で手に入れたさまざまなモノを展示し、石川の活動の知られざる裏側を紹介します。また、少年時代の貴重な写真や、高校時代に一人で初めてインドを旅行した際の写真などから、写真家・石川直樹の生い立ちや原点が垣間見られることでしょう。さらに、2004年に熱気球による太平洋横断に挑戦して海上に着水し、波にのまれたゴンドラとともに漂着した品々も展示します。



「VERNACULAR」(2008)

石川直樹 プロフィール

1977年東京生まれ。写真家。

東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。

『NEW DIMENSION』(赤々舎)、『POLAR』(リトルモア)により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞を受賞。『CORONA』(青土社)により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)ほか多数。

最新刊に、エッセイ『極北へ』(毎日新聞出版)、ヒマラヤの8000m 峰に焦点をあてた写真集シリーズの6冊目となる『AmaDablam』(SLANT)、47都道府県の名を冠した47冊の写真集刊行プロジェクト『日本列島』シリーズ(SUPER LABO×BEAMS)など。



【関連イベント】

開催記念対談

日時： 2月9日 [土] 14:00～15:30

出演： 森山大道 × 石川直樹

会場： 東京オペラシティビル 7階会議室

定員： 160名（全席自由）

参加費： 無料（展覧会の入場は別料金）、要整理券

* 開催当日 11:00 よりアートギャラリー入口にて整理券を配布します。整理券はおひとり1枚のみ。

* 13:40 までに、会場（東京オペラシティビル 7階会議室）前に整理番号順にお並びください。

アーティストトーク

日時： 2月3日 [日] 15:30～16:30

3月9日 [土] 15:30～16:30

出演： 石川直樹

会場： 東京オペラシティ アートギャラリー（展示室内）

* 申込不要（参加には当日入場券が必要です。また参加状況により入場制限を行う場合があります。）

【ICC との共通割引】

ICC で同時期に開催の「イン・ア・ゲームスケープ：ビデオ・ゲームの風景、リアリティ、物語、自我」の入場券をアートギャラリー受付でご提示いただくと、本展入場券が団体料金になります。

また ICC 企画展へご入場の際に本展入場券をご提示いただいた場合も団体料金になります。（他の割引との併用不可、ご本人様 1 回限り有効）

NTTインターコミュニケーションセンター [ICC] Tel: 0120-144199

<http://www.ntticc.or.jp>